

2 調査結果の概要

1 教科に関する調査の結果から

【国語】

- 年度の異なる同じ学年を比較すると、小学生は、上位層の割合が平成31年度調査より多い。一方、中学生は下位層の割合が平成31年度より多い。(→p. 6)
- 同じ学年集団を経年比較すると、中学校1年生は、「学力のレベル」の最頻値が平成31年度の小学校5年生のときより上がっており、学力の伸びが見られる。(→p. 7)

【算数・数学】

- 年度の異なる同じ学年を比較すると、小学校6年生は「学力のレベル」の最頻値が上がっている。小学校5年生以上においては最上位レベル、最下位レベルともに割合が多い。(→p. 8)
- 同じ学年集団を経年比較すると、全ての学年で学力の伸びが見られたものの、上位層から中位層までの割合が減っており、下位層の割合が増えている。特に下位層の割合の増え方は、学年が上がるにつれて顕著である。(→p. 9)

2 児童生徒質問紙調査と学力の傾向から

- 授業で学習の見通しをもつことや、話し合い活動で自分の考えをもつこと、学習内容のつながりを明確にすることがあったと回答した児童生徒ほど、学力が高い傾向にある。(→p. 39～45)
- 勉強する理由を「勉強することが楽しい、好きだから」と回答した児童生徒ほど、学力が高い傾向にある。(→p. 47～51)
- 学習の準備を整え、授業に臨むことができていると回答した児童生徒ほど、学力が高い傾向にある。(→p. 52～55)
- 教師及び他の児童生徒から認められたことがよくあると回答した児童生徒ほど、学力が高い傾向にある。(→p. 56～63)
- 授業の予習や復習に取り組むと回答した児童生徒ほど、学力が高い傾向にある。(→p. 66～69)
- 読書の冊数が多いほど、国語の学力が高い傾向にある。(→p. 70～73)
- テレビゲームの時間が長くなるほど、学力が低い傾向にある。(→p. 74～78)